

Ⅲ章

研究指定校実践事例

目次	ページ
防災教育指導要領	23
防災教育年間計画（令和4年度）	24
教科等横断的な防災教育の取組について	26
1 学年	26
実践事例1 数学 比例と反比例の利用	26
2 学年	28
実践事例2 国語 紙の建築	29
実践事例3 社会 地域調査の手法（防災の観点から）～東北地方～	30
実践事例4 英語 Unit3 In Case of Emergency	31
実践事例5 保健体育 傷害の防止	32
実践事例6 美術 その一枚が人を動かす（防災ポスターのデザイン）	34
3 学年	35
実践事例7 家庭 布を用いた物の制作（防災ずきん・手縫い）	35
外部専門家の活用について	37
学校防災教室① 講師 青森県防災危機管理課 防災企画グループ 主幹 太田 丈博 氏 外ヶ浜町総務課 班長 福岡 剛 氏	37
学校防災教室② 講師 弘前大学大学院理工学研究科 教授 片岡 俊一 氏 青森県防災士会青森支部 支部長 三浦 一郎 氏	37
地域と連携した防災訓練について	38
地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）	42

1 防災教育の目標

◎ 自他の生命を大切にできる生徒の育成

① 【知識・技能、関心】

地域の災害特性を知り、災害発生時に自他の命を守るために必要な知識・技能を身に付ける。(生徒の防災意識の喚起、実践スキルの向上)

② 【思考力・判断力、主体的行動】

有事の際には、防災学習で学んだことを生かし、自分たちから迅速な避難や救援活動に参画することができる。(避難訓練等で学習したことを実践)

③ 【学びに向かう力・人間性、社会貢献】

家族や周囲の人との関わりや体験活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育み、有事の際に協力して助け合うことができる。(適切な地域連携の在り方を確立する)

2 重点的に育成すべき資質・能力

- ア 災害から命を守るための知識・技能
- イ 有事の際に必要な判断力と適切な行動力
- ウ 周囲の人との関わりと協力

3 各学年における防災教育の目標

		知識・技能・関心	思考力・判断力 ・主体的行動	学びに向かう力・人間性 ・社会貢献
1 学 年	災害に対して継続的に関心をもつ	各地において、どのような災害が多く起こっているか知ることができる。	各地での災害時の被害状況と当時とられた行動について主体的に調べることができる。	各地での災害の際に、地域ではどのような協力体制がとられたのかを学ぶことができる。
2 学 年		自分たちの地域の気象や地形を学び、どのような災害が起こる可能性があるかを知ることができる。	災害時は、大人の指示を確実に聞き、状況に応じて適切な行動をとることができる。	災害時には、周囲の人たちとできることから協力し、助け合うことができる。
3 学 年		災害時を想定し、命を守るために必要な知識・技能と安全な行動の仕方を身に付けることができる。	これまでに学んできたことを生かし、災害に関する情報を収集しながら適切な判断のもとに身を守ることができる。	災害時には、周囲の人たちと協力し、地域復興に向けて進んで活動することができる。

防災教育年間計画（令和4年度）

月	防災教育関連行事	教科
4	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（火災）（通常避難路確認） ・交通安全教室 ・バス乗車マナー（登下校安全確認） ・GWの過ごし方 	
5		家庭（1年：生活を豊かにする物の製作） （2年：安全な住まいで安心な暮らし） （3年：衣生活の自立） 技術（2年：エネルギー変換の技術）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・老人施設訪問 ・防災教育アンケート 	社会（2年：地域調査の手法） （2年：日本の地域的特色と地域区分）
7	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災教室（外部専門家の活用①） ・龍飛清掃活動 ・夏休みの過ごし方 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・学区巡回 ・ねぶた祭り ・検討協議会① 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・老人施設訪問 	社会（1～3年：地域との関わり町おこし） 保健体育（2年：傷害の防止）
10	<ul style="list-style-type: none"> ・検討協議会② ・文化祭 ・学校防災教室（外部専門家の活用②） 	数学（1年：比例と反比例） 国語（2年：紙の建築）
11	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災訓練 ・検討協議会③ 	社会（3年：東日本大震災からの復興と防災）
12	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの過ごし方 	理科（3年：自然科学技術と人間）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学区巡回 ・避難訓練（AED講習、積雪時避難路確認） 	理科（1年：大地の活動） 理科（2年：天気とその変化）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携ネットワーク会議 	家庭（1～3年：調理実習）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みの過ごし方 ・防災教育アンケート 	

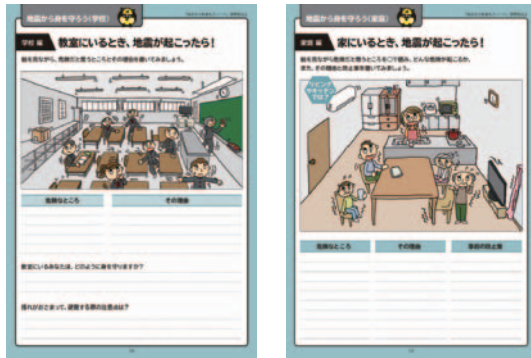
月	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	・生命の尊さ		・通学路や自宅周辺の危険箇所把握、共通理解
5	・よりよい学校生活、集団生活の充実	・地域連携 (三厩活性化プロジェクト)	
6	・自主自立、自由と責任	・地域連携 (三厩活性化プロジェクト) 全校話し合い活動①	・防災教育活動支援ツール『あおもりおまもりノート』を活用した防災学習
7	・遵法精神、公德心	・地域連携 (三厩活性化プロジェクト) 地域住民との関わり	
8		・文化祭のイベントを通して住民とつながる。	・フィールドワーク（自宅からの避難経路）
9	・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	・地域連携 (三厩活性化プロジェクト) 全校話し合い活動②	
10	・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度		・外部専門家を招いた防災学習
11	・国際理解、国際貢献		
12	・社会参画、公共の精神		・通学路や自宅周辺の危険箇所把握、共通理解（積雪時）
1	・家族愛、家庭生活の充実		・防災教育活動支援ツール『あおもりおまもりノート』を活用した防災学習
2	・感動、畏敬の念		
3	・よりよく生きる喜び		

教科等横断的な防災教育の取組について

教科別指導計画 1 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおり おまもりノート
数学	2	比例と反比例 ※実践事例 1	地震における P 波や S 波が観測されるまでの時間と震源からの距離の関係をとらえる。	p10～14
理科	3	大地の活動	大地の成り立ち（火山・地震・断層等）について基礎的な知識を習得し、災害へのつながりをとらえる。	
家庭	1～2	生活を豊かにする物の製作	裁縫技術が災害時に役立つことを踏まえ、基本的な縫い方や用具の使用法を習得する。	
	3	調理実習	安全と衛生に留意しながら、調理実習を通して食品や調理用具等の基本的な扱いを習得し、災害時に役立てる。	

実践事例 1 学習指導案

学 年	1 年
教科名	数学
単元名	比例と反比例の利用
指導計画 (全 4 時間)	1 待ち時間を予想しよう（比例の考えの利用）
	2 文化祭のスライドショーを作ろう（ $a = bc$ の関係）
	3 マラソン選手の通過時間を求めよう（グラフの利用）
	4 強い地震（揺れ）は緊急地震速報から何秒後？（本時）
本時の目標	地震の P 波、S 波の時間と距離のデータを表に整理したりグラフに表したりすることによって、それらの間に比例の関係があることを見だし、緊急地震速報から何秒後に大きな揺れが来るかを予測することができる。
防災の視点	緊急地震速報のしくみを知り、地震発生（速報）後の行動の取り方について考え、理解を深めることができる。
あおり おまもりノート の活用	『地震から身を守ろう』p10～14 の学習事項を振り返り、直ちに身を守る行動を取ることを再確認する。 
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"> データの処理について、数学アプリを使って行う。 あおりおまもりノートデジタル版で振り返りを行う。


本時の展開（4 / 4）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 緊急地震速報とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に地震速報の音を聴かせ、それが何かを確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報（音声）
2 緊急地震速報から何秒後に地震が起こるか予想してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間と距離のデータを表に整理したり、グラフに表したりすることによって、それらの間に比例の関係があることを見いださせる。 ・比例の考えを使って、地震が起こる時間を予想させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学アプリ geogebra ・データ付ワークシート
3 おまもりノートで地震発生時の行動について振り返ってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時の身の守り方を中心に振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおもりおまもりノート デジタル版
4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・地震速報から強い揺れが起こるまでの時間は極めて短く、震源に近いところでは速報が間に合わないこともあることを押さえる。 	

教科別指導計画 2 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおり おまもりノート
国語	2	紙の建築 ※実践事例 2	工夫を凝らした紙の仕切りを用いることで、災害時の避難所生活を少しでも快適にしようと尽力した人物の思いをとらえる。	p30～31
社会	1	地域調査の手法 ※実践事例 3	身近な地域で起こりうる自然災害について調べ、地形図や防災マップを参考にしながら有事の際の避難所等を確認することができる。	p16～17
	1	日本の地域的特色と地域区分	日本の地形や気候の特色を踏まえながら、自然災害の発生と防災に向けての取り組みを学習する。	p 4～6
理科	3	天気とその変化	気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べる。	p18～21
英語	2	In Case of Emergency ※実践事例 4	地震を経験したことがない外国人に対して、地震が起きた時どのように行動するか、またどのように地震に備えるのがよいかを英語で伝えることができる。	p16～17
保体	2	傷害の防止 ※実践事例 5	自然災害等による危険を把握するとともに、傷害の防止について理解を深め、災害時には応急手当（心肺蘇生法含む）を施すようにする。	p28～29
技術	1～2	エネルギー変換の技術	エネルギー変換の技術を利用したLEDライトの安全な製作を行うとともに、有事の際は防災用品として適切に使用することができる。	
家庭	1～2	安全な住まいで 安心な暮らし	災害時の避難の仕方、防災マップの確認、避難所の把握等、有事の際の基本的な対策を習得する。	p26～27
	3	調理実習	安全と衛生に留意しながら、調理実習を通して食品や調理用具等の基本的な扱いを習得し、災害時に役立つ。	
美術	1～ 夏休み	その一枚が人を動かす(防災ポスターのデザイン) ※実践事例 6	防災ポスターをデザインすることを通して、伝えたい情報などを整理し、色彩や構成などを考え、防災や減災について深く理解する。	p 4～40


実践事例 2 学習指導案

学 年	2年
教科名	国語
単元名	紙の建築
指導計画 (全5時間)	1 説明的な文章における事例の役割を理解し、本文の内容と筆者の主張を捉える
	2 事例の役割を確かめながら、筆者の行動とそれを支える信念を捉える (本時)
	3 事例を踏まえ、筆者の考えを捉える
	4 筆者の考えを踏まえながら、社会の中で働くことについて自分の考えを文章にまとめる
	5 まとめたものを発表し合う
本時の目標	4つの事例を読み、内容を整理しながらワークシートにまとめることで、筆者の行動とそれを支える信念を捉えることができる。
防災の視点	皆が過ごしやすく、快適に過ごせる避難所にすること。
あおもり おまもりノート の活用	p30～31 
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者（坂茂）が作った紙の建築物の写真や映像を電子黒板で見せる。 ・インターネットで他の紙の建築物を調べる。

本時の展開 (2 / 5)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 4つの事例をワークシートにまとめましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地で起こっていた問題点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・電子黒板
2 筆者は、どんな信念を持って紙の建築物や間仕切りを開発・設置したのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の建築物や間仕切りを設置したことで、どのように被災地や避難所の生活が改善したのかを読み取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・電子黒板
3 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、避難所や仮設住宅などの生活環境を改善し、建築家として社会に貢献しようという信念を持ってボランティアを行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・電子黒板 ・iPad

実践事例 3 学習指導案

学 年	2 年
教科名	社会
単元名	地域調査の手法（防災の観点から）～東北地方～
指導計画 (全7時間)	1 世界の災害と日本の災害（気候・気象・地形等）
	2 東北地方の地形の特色（メリットとデメリット）
	3 2011年 東日本大震災（本時）
	4 震災の歴史と対策・教訓
	5 三層で備えておくべきこと
	6 地域安全マップづくり（避難所確認含む）
	7
本時の目標	東日本大震災における被害状況から、なぜ被害が拡大したのかを考える。
防災の視点	津波のスピードや破壊力の現実をとらえることによって、正常性バイアスに陥ることの危険性を理解する。
あおり おまもりノート の活用	p16～17 使用 
ICTの活用	iPad（インターネット検索）において、津波のもつスピードや破壊力を調べる。

本時の展開（3／7）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 東日本大震災の被害の様子を見よう。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のストレスを避けるため、直接的な津波の画像の提示は必要最低限に留める。 	<ul style="list-style-type: none"> 震災当時の写真資料を中心に提示
2 なぜこれほどまでに被害が拡大したのかを考え、意見交換してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> 地形の特徴 災害時にもつ人の心理状況 過去の教訓（備え）の意識レベル 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の地形の特徴や、避難訓練等の際の自分の意識レベル。
3 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 災害の際にとるべき行動と、過信の危険性を知る。 	

実践事例 4 学習指導案

学 年	2年	
教科名	英語	
単元名	Unit3 In Case of Emergency	
指導計画 (全9時間)	1	地震が起こった時に最初にする行動の説明
	2	
	3	地震が起こった時に最初にする行動の理由を説明
	4	
	5	日本で生まれた防災グッズについて説明
	6	
	7	防災公園についての長文読解
	8	
	9	日本での地震への備えや行動についてのまとめ (本時)
本時の目標	地震を経験したことがない外国人に対して、地震が起きた時どのように行動するか、またどのように地震に備えるのがよいかを英語で伝えることができる。	
防災の視点	地震が起こった際にすべき行動や防災グッズの特徴を理解する。	
あおり おまもりノート の活用	p16～17 使用	
ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad (インターネット検索) において、地震が来た時の行動や日本で生まれた防災グッズについて調べる。 ・ Google スライドを使って、地震対策についての情報を英語でまとめる。 	

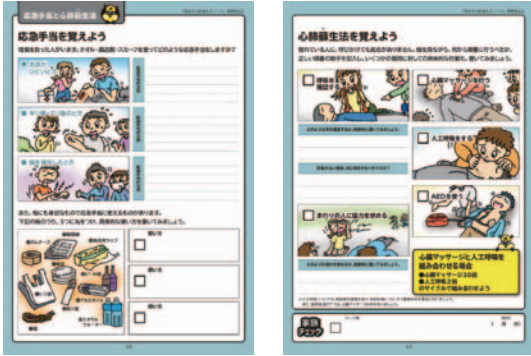
本時の展開 (9 / 9)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカの自然災害対策について、ALTの説明を聞きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカと日本の自然災害の種類や対策の違いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALTはGoogleスライドを使って提示。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本での地震対策や備えについて、英語でALTに伝えましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動の理由やグッズの使い方も含めて、英語で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒はGoogleスライドを使いながらALTに説明。



「もし地震が起きたら…」という題材のもと、英語で表現してみました。海に近づかないことや、ラジオや食べ物が必要となることなどが書かれています。

実践事例5 学習指導案

学年	2年	
教科名	保健体育	
単元名	傷害の防止	
指導計画 (全8時間)	1	傷害の発生要因
	2	交通事故の発生要因
	3	交通事故の危険予測と回避
	4	犯罪被害の防止
	5	自然災害による危険
	6	自然災害による傷害の防止
	7	応急手当の意義と方法 (本時)
	8	心肺蘇生法
本時の目標	傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できることなどについて理解し、包帯法や止血法ができるようにする。	
防災の視点	自然災害等による危険を把握するとともに、傷害の防止について理解を深め、災害時には応急手当(心肺蘇生法含む)を施すようにする。	
あおり おまもりノート の活用	p28～29 使用 	
ICTの活用	iPad(インターネット検索)において、様々な傷害における応急手当の種類を調べる。	

本時の展開 (7/8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 災害における傷害(けが)の種類はどのくらいあるか考えてみよう。	・調べさせる前に1つだけ提示する。	・手当の際に使用する道具を何個か提示する。
2 傷害に応じてどのような応急手当があるか話し合ってみよう。	・手当にかかる時間は、どのくらいがベストなのかも踏まえて話し合わせる。	
3 まとめ	・傷害が起きた際は、迅速かつ適切に手当をする必要があることを知らせる。	



保健体育科では、災害時や非常時に備え、応急手当の学習を実施しました。搬送法を学び、実際に学校に備え付けの担架で人を持ち上げる練習をしました。

実践事例6 学習指導案

学 年	2年
教科名	美術
単元名	その一枚が人を動かす（防災ポスターのデザイン）
指導計画 (全2時間) ※夏休み課題	1 様々なポスターを鑑賞する。 防災ポスターコンクールの応募条件を確認する。
	2 防災学習の復習をして、ポスターの構想を練る。(本時) ※下描き・色塗りは夏休み中に行う
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防災をテーマにしたポスターデザインに関心を持つ。 ・伝えたい情報、イメージ、伝える場面を基に主題を生み出す。 ・主題から文字の形や色彩、構成、伝達するイメージなどを考え、見通しを持ってデザインして表す。
防災の視点	防災ポスターをデザインすることを通して、伝えたい情報などを整理し、色彩や構成などを考え、防災や減災について深く理解する。
あおり おまもりノート の活用	p 4～40 使用
ICTの活用	iPad（インターネット検索）において、防災や減災について関心のあることや関連する画像を調べて、構想に生かす。

本時の展開（2／2）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 防災ポスターコンクールの応募条件を振り返ろう。	・大事なところを短く、明確に押さえる。	・防災ポスターコンクール実施要項
2 今まで全校で行ってきた防災学習の復習をしよう。	・要点になるところを確認する。	・おまもりノート
3 ポスターの構想を練ろう。	・様子を見ながら声掛けをする。	・ワークシート




美術科では、夏休みの課題として防災に関するポスターを作製しました。早く逃げることや、備蓄品の確認など、子どもたちが考えたテーマで描かれています。作品は、内閣府主催の「第38回防災ポスターコンクール」に出品しました。

教科別指導計画 3 学年

教科	学期	単元名	防災の視点	あおり おまもりノート
理科	2	自然科学技術と人間	身近な自然環境や地域の自然災害などを調べ、環境保全と科学技術の利用について考える。	
家庭	1～2	衣生活の自立 ※実践事例7	布を用いた物の製作を通して裁縫技術を磨き、災害時に役立つことができる。	p10～15、40
	3	調理実習	安全と衛生に留意しながら、調理実習を通して食品や調理用具等の基本的な扱いを習得し、災害時に役立つ。	
社会	2	東日本大震災からの復興と防災	東日本大震災による被災からの復興や、防災への取り組みについてとらえる。	p32～35

実践事例7 学習指導案

学 年	3 年
教科名	家庭
単元名	布を用いた物の製作（防災ずきん・手縫い）
指導計画 (全8時間)	1 製作の必要性を考え、作業の手順を確認して製作を始める。(本時)
	2 防災ずきん製作（ゴムひも付け①、布はしの始末）
	3 // (布はしの始末)
	4 // (キルト綿の縫い付け)
	5 // (返し口等の縫い合わせ)
	6 // (返し口等の縫い合わせ)
	7 // (ゴムひも付け②、仕上げ)
	8 災害時に役立つ物を工夫して製作することができたか振り返る。
本時の目標	身近にある丈夫な布で、防災ずきんを製作することができる。 用具を正しく使用し、安全に作業を行うことができる。
防災の視点	災害時に役立つ物を工夫して製作することにより、災害への備えの意識を高める。
あおり おまもりノート の活用	p10～15、40 
ICTの活用	丈夫に縫えるようにインターネットにある動画で縫い方を確認する。

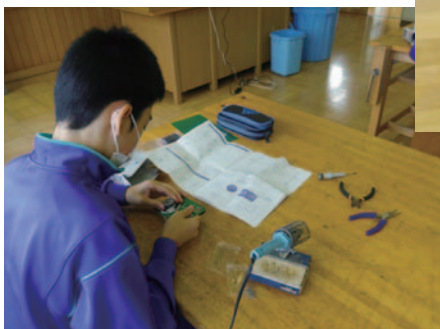
本時の展開 (1 / 8)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 地震の時にどのようなことに気を付けるか考えよう。	・防災ずきんの必要性や活用場面を考えさせる。	・完成図の画像
2 防災ずきんの製作の作業手順を確認しよう。	・実物を用いながら製作のイメージを持たせる。	・手引き書の画像 ・製作物の実物 (教師作成)
3 製作を始めよう。	・様子を見て声掛けをする。	・防災ずきん製作セット
4 振り返り	・次回どのような点に気を付ければよいか考えさせる。	・ワークシート



家庭科では、災害時に頭部を保護するための防災頭巾を作製しました。裁縫が得意な生徒もあまり得意でない生徒も、有事の際のことを意識しながら懸命に作っていました。

災害時に重宝するアイテムが「ラジオ」です。停電によりコンセントによる電源がとれない場合を想定し、乾電池で鳴らしてみました。



3 全体を通しての感想・使い道など
最初は上手くできなくて不安だったけれど、最後は下つくれてよかった。最近災害が多く起きているので、避難時や情報を知りたいときがあったら使いたいです。

3 全体を通しての感想・使い道など
感想 初めての経験で、火傷をふり、上手くできなくて少し悔しかったけど、少しづつ音がでていくのが嬉しくて、実際に音がでてきたのはとても嬉しかった。音がでてきた場所がどこか分からないけど、音がでてきたら完成できたと思う。使い道 災害があった時、自分の身を助けるために、いろいろなところに持ち出せる場所に置いておきたいです。

外部専門家の活用について

学校防災教室（外部専門家の活用①）

日時 令和4年7月12日（火）4校時（11：30～12：20）

ねらい 三厩地区の防災について考える学習に向け、県や町の防災担当者から学習に役立つ知識や情報を学ぶ。

講演 『いつかくる地震・津波に備えよう』

青森県防災危機管理課 防災企画グループ 主幹 太田 丈博 氏

『外ヶ浜町の防災について』

外ヶ浜町総務課

班長 福岡 剛 氏



学校防災教室（外部専門家の活用②）

日時 令和4年10月28日（金）5・6校時（13：20～15：20）

ねらい 11月11日（金）に計画している「地域総合防災訓練」に向けて、地震発生時に予想される地域の災害について知るとともに、災害発生時に役立つ応急手当スキルを身に付ける。

講演 『地震の発生と予想される地域の災害について』

弘前大学大学院 理工学研究科 教授 片岡 俊一 氏

演習 『身の回りのもの（レジ袋・三角巾）を活用した応急手当』

青森県防災士会青森支部 支部長 三浦 一郎 氏



地域と連携した防災訓練について

(1) 訓練のねらい

地震による津波の発生を想定し、

- ・災害発生時の避難の仕方や避難所での活動について理解し、落ち着いた態度で安全かつ迅速に活動することができる。
- ・避難所設置や応急処置体験を通し、必要な知識や技能を身に付けるとともに、地域における中学生の役割について考え、地域防災の意識を高めることができる。
- ・地域の人と一緒に体験活動等を行うことを通して、助け合いや思いやりの心を持つことができる。

(2) 日 時 令和4年11月11日(金) 9:00～12:00

(3) 災害想定 日本海沿岸を震源とする震度6弱の地震が発生し、大津波警報が発令

※三厩に津波が届くまでの時間は地震発生約40分後、津波の高さは最大で約9.7m

(4) 避難場所 外ヶ浜町立三厩中学校 体育館(および剣道場)

(5) 参加団体 三厩中学生徒(18名)、三厩小児童(4・6年生 8名)

三厩中学校職員(11名)、三厩小学校職員(数名)

外ヶ浜町(総務課・学務課)、青森県防災士会

地域の参加希望者(上宇鉄・元宇鉄・釜野澤・四枚橋)

(6) 避難経路 小中学生:各教室→体育館

地域の方:自宅→三厩中学校玄関前→(受付準備完了次第)体育館

(7) 訓練内容

第1部 9:00～ 避難訓練(震度6弱の地震発生)

児童・生徒:三厩中教室から体育館へ避難

第2部 9:10～ 避難所開設・受入れ訓練

①避難者開設準備 ※9:15 地域に防災無線放送で避難を指示



②避難者受入れ



③避難者受入れ完了

第3部 10:00～ 一緒に防災体験

①防災スキル体験

ア) 段ボールベッドの組み立てと設置 (講師 三厩中学校職員)



イ) 身の回りのものを利用した応急手当 (講師 中学生)

- ・レジ袋 (や上着) を使って腕を固定する方法
- ・三角巾を使った足首を固定する方法



ウ) 道具を使わずにけが人を搬送する方法 (講師 青森県防災士会)



②非常食体験 お湯で3分、水で5分、そのままでも食べられるピラフ



第4部 11:40～ 訓練の振り返り

①感想発表 (小学生1名、中学生1名)

②地域の方々から (各町内会の会長)

③講評 (三厩中学校校長)

三厩中学校からのお知らせです。

三厩中学校では、11月11日(金)に、四枚橋、釜野澤、元宇鉄、上宇鉄の地域の方々(事前に参加の確認をしている方)と一緒に避難訓練と避難所体験をあわせた防災訓練を行います。

その日の9時15分に次のような放送が防災無線で流されます。

「訓練放送。訓練放送。先程の地震により、津波警報が発令されました。地域住民の皆さんは三厩中学校への避難を開始してください。繰り返します。先程の地震により、津波警報が発令されました。地域住民の皆さんは三厩中学校への避難を開始してください。以上、訓練放送を終わります。」

これは訓練のための防災無線ですので、本物の地震、津波と間違わないようにしてください。

※訓練については裏面をご覧ください。

【問い合わせ先】

外ヶ浜町立三厩中学校

教 頭 _____

E-mail _____

Tel : _____

外ヶ浜町立三厩中学校防災訓練実施概略

〰 日 時 令和4年11月11日（金） 9：00～12：00

〰 災害想定 日本海沿岸を震源とする震度6弱の地震が発生し、大津波警報が発令
※三厩に津波が届くまでの時間は地震発生約40分後、津波の高さは最大で約9.7m

〰 避難場所 外ヶ浜町立三厩中学校 体育館（および剣道場）

〰 参加団体 三厩中生（18名）、三厩小児童（4・6年生 8名）
三厩中学校職員（11名）、三厩小学校職員（数名）
外ヶ浜町（総務課・学務課）、青森県防災士会
地域の参加希望者（上宇鉄・元宇鉄・釜野澤・四枚橋）

〰 訓練内容

第1部 9:00～ 児童・生徒の避難訓練（震度6弱の地震発生）

第2部 9:15～ 避難所開設・受入れ訓練

- ①-1 駐車場等への誘導 ①-2 受付の開設
①-3 体育館設営 ①-4 各導線の確保



②避難者受入れ 9:15～

※9:15 地域に防災無線放送で避難を指示

第3部 10:00～ 一緒に防災体験

①防災スキル体験

ア)段ボールベッドの組み立てと設置

イ)身の回りのものを活用した応急手当

・レジ袋(や上着)を使って腕を固定する方法

・三角巾を使った足首を固定する方法

ウ)道具を使わずにけが人を搬送する方法 ※徒手搬送

②非常食体験

お湯で3分、水で5分、そのままでも食べられるピラフ

第4部 11:40～ 訓練の振り返り

- ① 感想発表（小学生1名、中学生1名）
② 地域の方々から（各地区会長さん）
③ 講評（三厩中学校校長）

地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）

協議会出席者

所 属	役 職	備 考
三厩中学校	校長、教頭、防災教育担当	研究指定校
三厩小学校	教頭又は養護教諭	研究指定校の周辺校
外ヶ浜町教育委員会学務課	総括班長	所管の教育委員会
外ヶ浜町総務課	班長	所管の防災担当部局
町内会（元宇鉄・四枚橋・釜野沢・上宇鉄）	会長、民生委員	地域の関係者
弘前大学教育学部	教授	外部有識者
日本赤十字社青森県支部	事業推進課長	外部専門家
青森県防災士会	青森支部長	外部専門家
東青教育事務所	指導主事	事務局
青森県教育庁スポーツ健康課	指導主事	事務局

第1回検討協議会

日 時：令和4年8月22日（月）13：30～15：30

場 所：外ヶ浜町立三厩中学校 1階 食堂

内 容：今年度の本校防災教育について

- (1) 令和4年度防災教育指導計画について
- (2) 地域と連携した総合防災訓練（11月）について
- (3) 情報交換



「命を守る！防災教育推進事業」地域と連携した防災訓練

【令和3年度の取り組み】

- 1 日時 令和3年11月5日（金）9：00～
- 2 場所 外ヶ浜町立三厩中学校 校庭・体育館
- 3 参加者 ①三厩中学校生徒、職員 ②三厩小学校5・6年児童、職員
③地域住民（四枚橋・釜野澤・元宇鉄・上宇鉄）
④外ヶ浜町役場（三厩支所・総務課・教育委員会）
⑤日本赤十字社青森県支部 ⑥青森県防災士会
⑦青森地域広域消防事務組合



4 訓練内容

第1部 地震発生後の避難（9：00～）

- ①児童・生徒：三厩中校舎から校庭への避難
- ②地域の方々：各家庭・地域から三厩中学校校庭への避難

第2部 避難所設置体験（9：15～）

避難者誘導・・・防災士会・小中学生
受付・・・赤十字・中学生
設営・・・町総務課・支所・小中学生



第3部 一緒に防災体験（10：00～）

- ①3つのグループに分かれてのグループワーク

	心肺蘇生 (赤十字)	応急手当 (防災士会)	119番通報 (消防本部)
10:00～10:25	Aグループ	Bグループ	Cグループ
10:30～10:55	Cグループ	Aグループ	Bグループ
11:00～11:25	Bグループ	Cグループ	Aグループ

- ②非常食体験 ※非常用のカレーライスを試食します。



第4部 訓練の振り返り（12：00～）

- ①感想発表（小学生1名、中学生3名）
- ②講評（三厩中学校校長）

【成果と課題】

①主な成果

- ・生徒の防災に関する意識を高めることができた。また、体験を通して、防災スキルや技能が向上した。（生徒アンケート及び自己評価から）
- ・多くの地域の方に参加していただき、学校の取組を知っていただくとともに、防災に関する関心を高めることができた。

②主な課題

- ・防災体験はスキルの向上という点では有効であったが、生徒と地域の参加者の交流を深めるという点では改善を要すると感じている。

※ 搬送訓練や通報訓練を地域の方々が見るだけでなく、児童生徒と一緒にすることはできな

っただろうか。

- ・ 今後、実際に学校で避難所を設置するための独自の避難所設置・設営マニュアル等の整備をどのように進めていくべきか。

③検討協議会での主な意見等

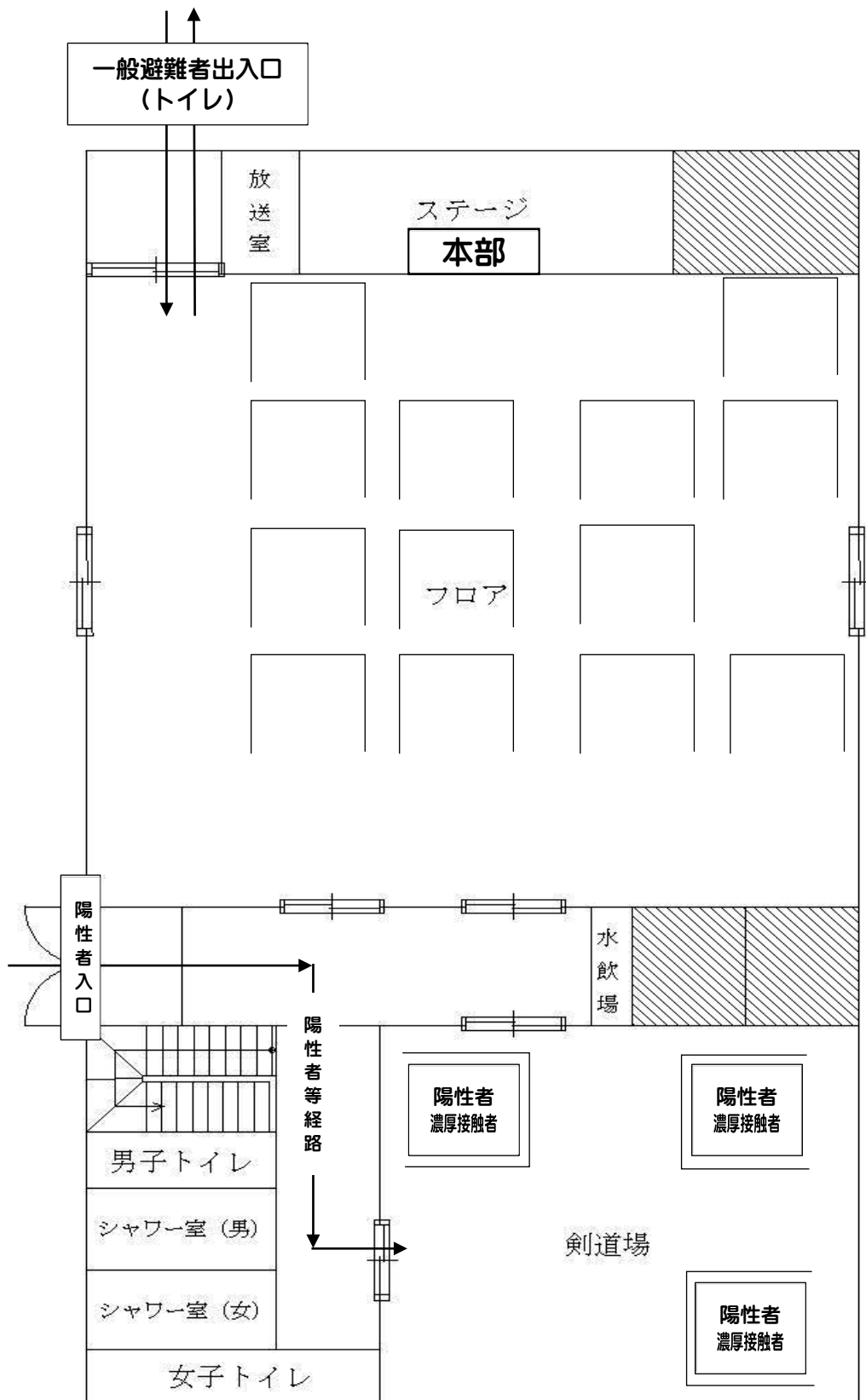
- ・ 中学生が自分たちの役割をしっかりと意識していた。訓練を繰り返し行うことが必要だと改めて感じた。
- ・ 訓練内容は初めての経験が多く、とても興味深くよい経験になった。自分たちの地区では、動ける男性のみに声をかけて参加したが、次の機会には他地区と同様、男女問わず参加を呼びかけたい。
- ・ 訓練の内容を事前にわかりやすく伝えることで、地域の方々が参加しやすいと考える。町の広報誌等で周知することも一つの方法だと思う。
- ・ 今回、訓練に向けて備蓄品等を確認したところ、町の備蓄品が十分に整備されていないことを知り、いい機会となった。また自主防災組織の設置を今後、呼びかけていく。
- ・ 受付ではテーブルの数が足りないことや名簿から氏名を見つけにくい等があげられた。受付を簡潔にする方法など、今後の訓練で反省点を活かして改善してほしい。
- ・ 大規模地震発生直後の対応については、1～2日後でなければ行政支援が得られないことから、避難所の設営について、発災から避難所設営までの時間を学校の教職員・生徒でどう乗り切るかが大きな課題となる。そのためにも行政と地域住民との共通理解は大変重要だと考える。

【令和4年度 防災訓練案】

- 0 概要
- ・ 震度5強の地震を想定。避難（訓練）の後、学校の職員及び生徒が主体となって学校の避難所を準備する。
※①受付の準備→②駐車場等への誘導準備→③各動線の確保
 - ・ 避難者受入れ準備が整い次第、地域からの避難者（地域の協力者）を迎え、避難所設営を一緒に行う。避難所の設営が完了したら、運営ルールを参加者全員で確認し、地域に運営をバトンタッチする。
 - ・ 後半は生徒と地域の方が一緒に防災体験を行う。
- 1 日時 令和4年11月11日（金） 午前
- 2 場所 外ヶ浜町立三厩中学校 校庭・体育館
- 3 参加者 ①三厩中学校生徒、職員 ②三厩小学校6年児童、職員
③地域住民（四枚橋・釜野澤・元宇鉄・上宇鉄）
④外ヶ浜町（三厩支所・総務課・教育委員会）
⑤日本赤十字社青森県支部 ⑥青森県防災士会
⑦青森地域広域消防事務組合
- 4 訓練内容
- 第1部 避難訓練（震度5強の地震発生）
児童・生徒：三厩中校舎から校庭へ
- 第2部 避難所開設訓練（学校職員・生徒のみ）
- ①受付の準備
 - ②駐車場等への誘導準備
 - ③各動線の確保（体育館への動線確保 コロナ対応あり）
-
- ```
graph TD; A[③各動線の確保] --> B[④体育館設営]; B --> C[⑤避難者受入れ]; C --> D[⑥避難所のルールの確認と地域への引き渡し]; C --> B;
```
- 第3部 一緒に防災体験（①徒手搬送、②生活用品の活用、③炊き出し）
- 第4部 訓練の振り返り
- 5 訓練用購入物品
- ① ブルーシート（4.5m×4.5m 15枚）

- ② 段ボール板 (段ボールベッドに付属のもの 30 枚)
- ③ 段ボールベッド (15 セット)
- ④ 炊き出し用食材又は非常食 (60 人分)

6 避難所設営イメージ



※検温・問診は生徒玄関前で行い、一般の避難者は職員室前を通って移動する。

## 第2回検討協議会

日時 令和4年10月3日(月) 13:30～15:30

場所 外ヶ浜町立三厩中学校 1階 食堂

内容 協議・検討

- (1) 地域と連携した防災訓練について(11月11日(金)実施予定)
- (2) 外部専門家による防災教育について(10月28日(金)実施予定)

## 第3回検討協議会

日時 令和4年11月21日(月) 13:30～15:00

場所 外ヶ浜町立三厩中学校 1階 食堂

内容 今年度活動報告

検討・協議

- (1) 今年度の地域と連携した防災訓練について

### ○外部専門家から

- ・避難所の受付は人が一気に押し寄せるため混雑しやすい。
- ・テーブルは1つより2つ、高さは立ったままでも書きやすい高さにする。例えば、テーブルの上に20～30cmの段ボール等を上げるなど。
- ・後ろに並んで待っている人をコントロールできるとよい。そのため、誘導する人が必要となる。

### ○外ヶ浜町から

- ・児童生徒が関心を高く持ってくれたことが成果である。
- ・町としては、PHEV(電気自動車)によるテレビ上映、パネル展示を実施した。今後も、学校の行事等で展示させてもらえるとありがたい。今後も町や教育委員会のできる事があればお手伝いしたい。

### ○三厩小学校から

- ・昨年度の防災訓練では、心肺蘇生法や119番通報など外部指導者から教えていただいたが、今年度は中学生が主体的に指導する場面が多く、小学生への声かけも多くあって頼もしく見えた。小学生も安心して進められた。4年生でも教えると動ける子がたくさんいて、大人の中でも力を発揮できることを実感した。

### ○町内会から

- ・地域から女性の参加が多かった。「チラシ」を見て参加したとの声も多く、広告での周知は有効であった。
- ・救急法や通報訓練などを毎年実施することによって、地域の防災意識も高まっていくと思う。

### ○県教育委員会から

- ・一般的に防災教育はインプットの活動になりがちだが、今年度の防災訓練では、生徒が事前に学習した応急手当の方法を地域の方々に指導する場面を設定したり、文化祭においては自分で調べた避難経路を披露する機会を設定したりしていた。そうした外に向けて学んだ内容を発信する「アウトプット」の活動を設けることが学習の成果を高めるためには効果的である。次年度以降もそのような場面を多く設定して取り組んでほしい。

- (2) 次年度以降の活動について

### ○三厩中学校から

継続できるものとして

- ①総合的な学習の時間の中で「あおりおまもりノート」「おまもり手帳」を活用した防災学習を繰り返しとなるが実施したい。
- ②AED・心肺蘇生法を4月の避難訓練後に実施したい。
- ③防災に関して地域から学ぶ活動として、町内会の方を招いて講演会や座談会を計画したい。
- ④地域と連携した（合同の）防災訓練

学校を中心としてこれまでと全く同じ形で継続していくことは、児童生徒数の減少などを考えると難しい。規模縮小などを念頭に実施計画を整理したい。

○県教育委員会から

地域と連携した防災訓練については、予算なしでも実施することは可能。例えば、避難所に物資が無ければ避難者が持ち寄ることが必要となるため、そのような場面を想定して、避難者が食材や調理器具を持ち寄って炊き出しを行うことも訓練として実施することもできる。学校が取り組む防災教育の目標と地域の防災上の課題を明確にした上で、実施可能な訓練を検討してはどうか。

他の指定校では町が主催する総合防災訓練と協働して訓練を次年度以降も引き続き実施する予定である。教職員の過度な負担を軽減するためには、既存の資源やシステムを活用する視点も重要である。

○外ヶ浜町から

町では職員を対象とした訓練は実施しているが、住民や学校を巻き込んだ総合防災訓練を実施したことはなかった。8月の豪雨被害を契機に、町としても防災訓練を実施していかなければならないという話になっている。地域や学校に御協力いただきながら訓練につなげていければよいと考えている。

## 令和4年度外ヶ浜町立三厩中学校防災教育の取り組みについて

### 1 本校防災教育の目標

自他の生命を大切にできる生徒の育成

**【知識・技能、関心】**

地域の災害特性を知り、災害発生時に自他の命を守るために必要な知識・技能を身に付ける。  
(生徒の防災意識の喚起、実践スキルの向上)

**【思考力・判断力、主体的行動】**

有事の際には防災学習で学んだことを生かし、自分たちから迅速な避難や救援活動に参画することができる。

(避難訓練等で学習したことを実践)

**【学びに向かう力・人間性、社会貢献】**

家族や周囲の人との関わりや体験活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育み、有事の際に協力して助け合うことができる。

(適切な地域連携のあり方を確立する)

※学校危機管理マニュアル(防災マニュアル)の確認、見直し。

有事の際、全職員で共通理解のもと状況に応じた適切な行動がとれるようにする。

### 2 本校の課題

- ① 災害に関する意識の低さや知識の不足
- ② 災害発生時における防災スキル経験の不足
  - ・いつ、どこにいても命を守る適切な行動がとれるか。
  - ・避難後、状況に応じた適切な行動がとれるか。
- ③ 災害発生における職員の動き、地域や関係機関との連携はどうあるべきか。

### 3 今年度の取り組み

| 月 日   | 活 動                               | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月20日 | 第1回避難訓練                           | 避難口、避難経路確認及び消火活動体験                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 4月26日 | 第1回連絡会議                           | 県庁                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 7月11日 | 防災学習①                             | ・あおもりおまもりノート<br>(p14~17)<br>「地震から身を守ろう<br>(外にいるとき)」                                                                                                                                                                                                                   |
| 7月12日 | ※生徒・教職員対象<br>学校防災教室①<br>(外部専門家活用) | 11:30~12:20<br>講師 県防災危機管理課 太田 丈博 氏<br>「いつかくる。地震・津波に備えよう」<br>外ヶ浜町総務課 福岡 剛 氏<br>「外ヶ浜町の防災について」    |

|        |                                       |                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月19日  | 防災学習②                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あおりおまもりノート (p26～27)</li> <li>「避難時の基本行動」</li> <li>※自宅付近の避難マップ作成</li> <li>・防災教育アンケート (生徒・教師対象) ※県へ提出</li> </ul>  |
| 夏休み中   | 防災学習③                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク</li> <li>「避難マップ通りに避難できるか確認しよう」</li> <li>立てた計画にしたがって避難場所まで実際に行き、計画の修正を行う。</li> </ul>                                                                                                      |
| 7月25日  | 先進地視察                                 | 岩手・宮城 27日まで (教諭1名)                                                                                                                                                                                                                        |
| 8月22日  | 検討協議会①                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの取り組みについて</li> <li>・今年度の事業推進計画等の確認</li> <li>・地域連携防災訓練についての意見交換</li> </ul>                                                                                                                    |
| 10月3日  | 検討協議会②                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携防災訓練実施要項の検討・確認</li> </ul>                                                                                                                                                                     |
| 10月16日 | 三中祭                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの防災学習の成果を展示発表</li> <li>「我が家の防災マップ」</li> <li>「防災ラジオ (技術科)」</li> <li>「防災頭巾 (家庭科)」</li> </ul>                |
| 10月28日 | ※生徒・教職員対象<br>学校防災教室②<br>(外部専門家活用)     | 第1部 講演<br>講師 弘前大学大学院 教授 片岡 俊一 氏<br>『地震の発生と予想される被害について<br>青森県の被害想定をもとに』<br>第2部 防災スキル体験<br>講師 県防災士会青森支部長 三浦 一郎 氏<br>身の回りのものを活用した応急手当<br>                |
| 11月11日 | ※地域住民・小学生参加型<br>地域連携防災訓練<br>(第2回避難訓練) | 地域と連携した防災訓練<br>①避難訓練<br>②避難所設置訓練<br>③防災スキル体験<br>④振り返り<br>                                                                                             |
| 11月21日 | 検討協議会③                                | 今年度の防災教育についてと次年度以降の展望                                                                                                                                                                                                                     |
| 11月25日 | 第2回連絡会議                               | 県庁                                                                                                                                                                                                                                        |
| 1月23日  | 第3回避難訓練                               | 冬期間の避難について                                                                                                                                                                                                                                |
| 2月     | 第3回連絡会議                               | 県庁                                                                                                                                                                                                                                        |

#### 4 地域と連携した防災訓練について

##### 第1部 地震発生後の避難（9：00～）

①児童・生徒：三厩中校舎から体育館への避難（9：00～9：10）

##### 第2部 避難所開設・避難者受入れ訓練（9：10～）

①-1 駐車場等への誘導

①-2 受付の開設      ①-3 避難所へ誘導路確保      ①-4 体育館受入れ準備



**避難者受入れ 9：15～ ※9：15 地域に防災無線放送で避難を指示**

②-2 受付業務      ②-3 避難者の誘導      ②-4 体育館での避難者案内



③避難所受入れ完了

##### 第3部 一緒に防災体験（10：00～）

①3つのグループに分かれてのグループワーク

|             | 段ボールベッドの組み立て<br>(講師 担当教師) | 身近なものを使った応急手当<br>(講師 中学生) | 道具を使わない負傷者搬送<br>(講師 防災士会) |
|-------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 10:00～10:20 | A (学習委員)                  | B (保健委員)                  | C (生活委員)                  |
| 10:25～10:45 | C (生活委員)                  | A (学習委員)                  | B (保健委員)                  |
| 10:50～11:10 | B (保健委員)                  | C (生活委員)                  | A (学習委員)                  |

②非常食体験（11：15～） お湯で3分、水で5分、そのままでも食べられるピラフ

##### 第4部 訓練の振り返り（11：40～）

① 感想発表（小学生1名、中学生1名）

② 地域の方々から（各地区会長さん）

③ 講評（三厩中学校校長）

#### 【主な成果】

- ・これまでの防災学習の成果が随所で活かされた訓練となった。
  - ① 避難時の行動・・・『おももりノート』校内で地震が起ったら
  - ② 避難所の開設訓練・・・昨年度の避難所開設体験
  - ③ 体験活動・・・外部講師による防災スキル体験
- ・地域の方との防災スキル活動を通して、交流が深まり、学校における防災について相互に理解を深めることにつながった。
- ・振り返りの中で、地域の方にもお話を頂いたことで、子どもたちも大人も、地域の防災についてより身近に感じる事ができた。

#### 【主な課題】

- ・防災訓練が平日に行われたため、仕事を持っている方の参加が難しかったこと。
- ・生徒及び教職員数の減少に伴い、次年度以降も今年度同様な取り組みができる体制をどう整えていくか。

#### 5 今後の見通し

2年間の取り組みを振り返って整理し、総合的な学習の時間を中心に持続可能な形で子どもたちや地域への防災教育が継続されていくようにしたい。